

本県教員を志望する高校生に係る取組について

青森県教員等資質向上推進協議会

1 はじめに

本協議会では、校長及び教員の資質の向上に関する指標の協議に加え、それ以外の校長及び教員の資質の向上に関して必要な事項についても協議した。

本県では、全国の中でも速いスピードで人口減少や高齢化が進んでおり、いわゆる人口減少社会を支える人財の育成が喫緊の課題となっていることから、本県教育の未来を支える有能な人財の育成等に資するため、本県教員を志望する高校生を支援する取組について、以下に示すこととした。

本協議会では、教員志望の高校生に向けたこのような取組の推進・充実が図られることを望むものである。

2 高等学校における現状

各高等学校では、生徒一人一人が自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成を目指し、各校の特色や生徒の実情等に応じたキャリア教育に取り組んでいる。具体的には、地域資源等を活用した郷土・地域理解に向けた取組や、大学生とのワークショップを通して自己の在り方や将来の夢等について考える機会を設けるなどの取組を行っている。

これらの取組の中には、高校生が小・中学校等に出向いて子どもたちと関わる機会を持つ活動を行うなどの取組事例があり、このような体験は、高校生が教員の役割・責務の一面を知り、教職の魅力を再確認できる契機となっている。

3 今後に向けて

高等学校において、これまで取り組んできたキャリア教育を更に推進・充実させていく中で、教員志望の高校生に対して、本県学校教育指導の重点に掲げる生徒指導の充実や特別支援教育の充実等をも視野に収めつつ、小・中学校等において学習支援などの体験活動を行うこと、教員養成系大学関係者や若手教員等から話を聞くことやその学びの省察を目的とした振り返りの場を持つこと等、取組を工夫^(*)していくことが求められる。これらの取組により、教員志望の高校生が教職への理解を深めるとともに教職の魅力を再確認でき、将来の職業として教員を選択する生徒が増えることを期待するものである。

※取組の参考例

- 高校生が小・中学校、特別支援学校において児童・生徒と関わる体験活動等（児童・生徒の学習の支援、合格体験や高校生活等の紹介、交流及び共同学習、学校行事の手伝い等）を行うことにより、子どもたちが成長する過程に関わることを通して教職に対する魅力を体感するとともに、自身の教職に対する意欲や資質等確かめる機会を持つ。

- 体験活動等を行うに当たり、事前に大学の教育学部の教員等から講義を受けることにより、教職に対する理解を深め、実際に活動する際の支援する立場としての視点を明確にすることで、その後の体験活動をより意義のあるものとする。
- 体験活動等の終了後には、教員を志望する高校生同士でワークショップを行い、他者と見方・考え方を共有するなど、適切な振り返りの場をもち、自身の体験に基づいた教職に対する理解、考え方及び意欲等を深化させるものとする。その際には、教員を目指す大学生等にファシリテーターをお願いし、高校生の協議や理解を一層深化させるようにする。